

平成 18 年度 全国都市再生モデル調査実施計画書

1 調査名

- ・南々空知地域のスローライフを満喫するロングステイ型移住ビジョンの策定

2 調査対象地域

- ・南幌町、長沼町、由仁町、栗山町

3 調査主体

- ・南々空知地域ロングステイ型移住ビジョン策定委員会

代 表：三好富士夫（南幌町長）

担当者：嶋田 浩彦（南幌町役場総務課政策推進室長）

〒069-0292 北海道空知郡南幌町栄町 3 丁目 2 番 1 号

TEL：011-378-2121(内線 234) FAX：011-378-2131

E-mail：SimadaHirohiko@town.nanporo.hokkaido.jp

4 調査目的

- ・札幌都市圏の東部に隣接する南々空知地域は、南幌町・長沼町・由仁町・栗山町の 4 町によって構成される。この地域は、都市近郊型農業に支えられた農村地帯と、コンパクトに開発された面的住宅市街地によって『優良な田園型居住地域』となっている。
- ・近年、農業後継者不足による耕作放棄地の増加や農地転用による宅地開発の進行、高度成長期に開発された面的住宅市街地における少子高齢化の進展、新規居住者と既存コミュニティとの摩擦の発生などが顕在化し始めている。
- ・一方、体験型農業やファームレストランなど都市近郊型農業の強みを活かした複合型地場産業の萌芽や、農業法人の増加・集積、田園環境に魅了された芸術家や団塊世代の移住・集積などの新しい再生の動きもみられる。
- ・このことから、本調査では、南々空知地域の 4 町が連携し、地域の抱える課題（都市近郊型農業再生、新旧居住コミュニティの融合、優良な田園型土地利用の維持）の包括的な解決にむけて、この地域ならではの豊かなスローライフを地域内外に発信するとともに、体験ステイ、リピートステイ、ロングステイ、移住などのニーズを積極的に開発するための実験的取組みを実施し、今後の広域連携による地域再生のビジョンとエリアマネジメントのあり方を提言する。

5 調査内容

1) 『南々空知地域ロングステイ型移住ビジョン策定委員会』の開催

- ・隣接する 4 町が連携し、地域の抱える課題（優良な田園型土地利用の維持、新旧住民のコミュニティの融合、都市近郊型農業再生など）の包括的な解決にむけて、南々空知地域ならではの豊かなスローライフを発信・創出・展開する実験的取組み等を踏まえて、広域連携による地域再生のビジョンとエリアマネジメントのあり方を提言するための有識者等に

よる策定委員会を開催する。(2回開催)

2) 『まおいオープン大学』の開催

- ・4町が連携し、地域全体を校舎と見立て、地域課題の解決に資する知見、経験、ノウハウを有する専門家や地域再生リーダーを講師とする1日のラーニング・ツアーとして『まおいオープン大学』を開催する。(1回開催)
- ・この大学は、NPO日本都市計画家協会が展開している「地域環境ワイズユース大学」と連携し、主に4町のまちづくり関係者が地域全体の資源、特色、課題を共有化し、スローライフを切り口とした地域づくりの戦略や方策を学び合う場にするるとともに、大学運営の組織とプロセスが今後のエリアマネジメントの実験的取組みとなることを想定しつつ推進する。

3) 『まおいスローライフ創出プロジェクト』の実施

住宅市街地まるごとコーポラティブ化プロジェクト

- ・本プロジェクトは、マオイ地域における田園型スローライフの実現を求めるニーズに対して、1)既成市街地における未利用地や既存ストック(北海道住宅供給公社が開発した南幌町のみどり野団地、集合住宅など)、2)マオイ丘陵地の住宅地化が進むエリア、を対象に、専門家や行政、地域住民、地元住宅業者、学生などによる「(仮称)マオイ地域づくり再生研究会」を設置し、ワークショップを実施(2回)しながら、“住まいとまちづくりの連携”した地域イメージとその実現化方策について検討するものである。

田園・芸術体験型長期遊住プロジェクト

- ・本プロジェクトは、全国の都市住民が、マオイ地域における田園型スローライフを体感することにより、リピーター・移住者になってもらうことを視野に入れ、これまで長沼町が主体となって取り組んできた修学旅行の農家民泊による受け入れを、一般の家族連れやグループにも裾野を広げ、地域全体とフィールドとした“田園・芸術体験型ロングスティ・ツーリズム”へと発展させるため、「コンセンサスの形成」と「旅行代理店やマスコミへのPR」を目的としたワークショップ(2回)を実施する。

地域資源活用テーマコミュニティ育成プロジェクト

- ・本プロジェクトは、“マオイ地域における新旧住民の交流を広げる”ことを目的に、町内の新旧コミュニティの交流、マオイ地域全体での交流、マオイ地域でのテーマコミュニティの可能性・方向性の検討、の3つの視点のもと、地域資源を活かした「食」を通じて交流を深めるとともに、新旧コミュニティの交流に関する意見交換会(2回)を開催する。

複合型地場産業担い手育成プロジェクト

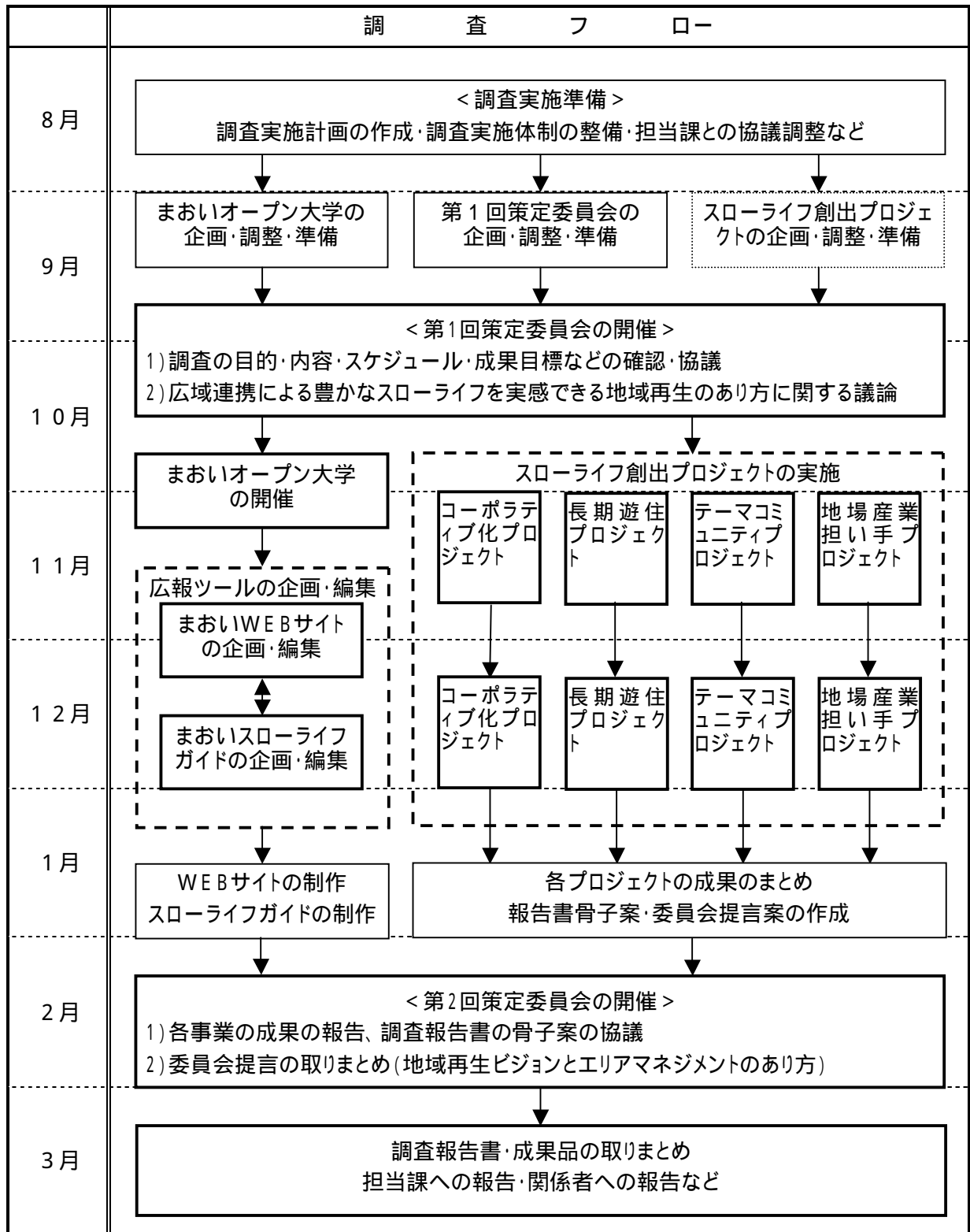
- ・本プロジェクトは、マオイ地域における様々な資源(人・物・技術)を活用し、田園型ライフスタイル産業とでもよぶべき新産業を創造するため、「(農業や加工、食や観光などを対象とした)地域のビジネス・コミュニティのリーダーによるコミュニティとネットワー

クづくり(まおい田園ビジネス・クラスターづくり)」を目的とした交流会(サロン)を開催する。(2回/年)

4) 『まおいスローライフ広報ツール』の制作

- ・「まおいオープン大学」や「まおいスローライフ創出プロジェクト」の成果を活用しつつ、まおい地域の豊かなスローライフを地域内外に向けて広報・発信するためのツールとして、専用のWEBサイトを立ち上げるほか、「まおいスローライフガイド」を編集・制作する。
(10,000部制作)

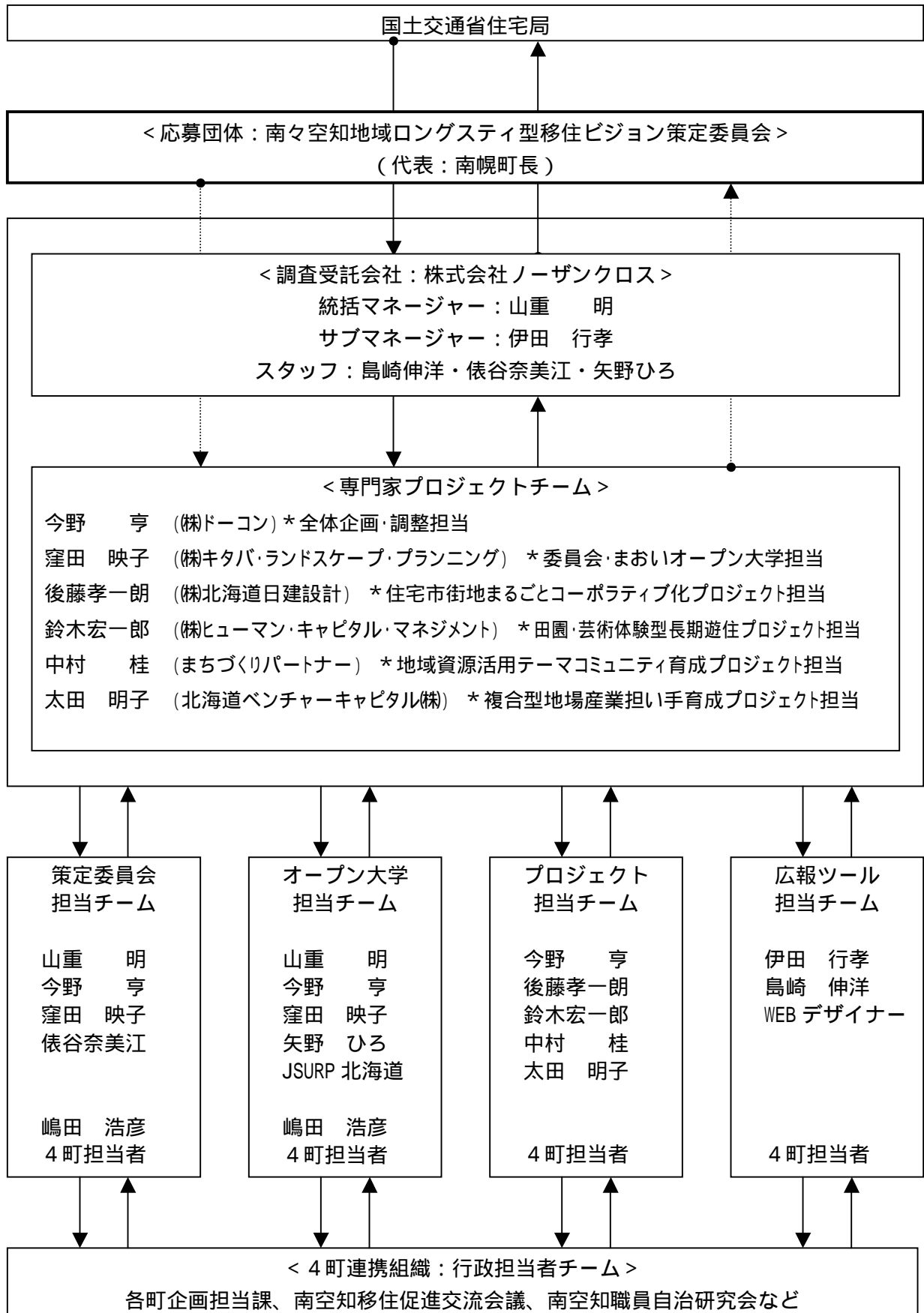
6 調査フローとスケジュール



7 成果品リスト

- ・南々空知地域スローライフ型移住ビジョン策定報告書 (A4版・50頁・1色刷) 100部
- ・まおいスローライフガイド (A4版・8頁・4色刷) 10,000部
- ・まおいスローライフWEBサイト (<http://www.maoi.com>) 一式

8 調査実施体制



9 策定委員会の構成（案）

委員長：

小林 英嗣 北海道大学大学院工学研究科教授（NPO 日本都市計画家協会副会長）

委員：

石森 秀三 北海道大学観光学高等研究センター長・教授

小池 明夫 北海道旅客鉄道(株)代表取締役（「住んでみたい北海道」推進会議会長代理）

榛村 純一 (財)森とむらの会理事長（美しい景観を創る会メンバー・前掛川市長）

辻井 達一 (財)日本グランドワーク協会理事長・(財)北海道環境財団理事長

林 美香子 フードジャーナリスト（スローフード&フェアトレード研究会会長）

オブザーバー：

三好富士夫 南幌町長

板谷 利雄 長沼町長

斎藤 外一 由仁町長

椿原 紀昭 栗山町長

アドバイザー：

内閣府都市再生本部

国土交通省住宅局市街地建築課

国土交通省北海道開発局事業振興部都市住宅課

北海道知事政策部政策企画担当

北海道空知支庁

事務局：

4 町企画担当者 南幌町、長沼町、由仁町、栗山町

調査受託会社等 (株)ノーザンクロス、専門家プロジェクトチーム